

J Aのリスクマネジメントの目的は3つに集約される。1つは経営の継続性(ゴーイングコンサーン)の確認と維持だ。

大部分のJ Aでは経営の継続性を監査証明や自己資本比率など間接的な方法でしか判断できない。現在、コンサルで行う継続性の確認は、リスクが顕在化し、統計的に最大限損失を被った場合の損失額(最大損失額)をリスク量として可視化。それを自己資本額や経営体力と比較し、その範囲でリスクがカバーできるか

職場のマネジメント

63

経営の継続性確認と維持

を確認する方法である。

このため、例えば最大限のリスクが生じた場合でも

リスク許容限度額を設定し、その範囲でリスクテイクを行うため、絶えず経営の継続性が維持できるようになる。

リスク許容限度額に対し

る。このため、決められたリスク許容量を超えることがなくなり、経営の継続性が守られていくこととなる。継続性の確認とともに限度管理によって経営の継

リスク量の数値化を

自己資本比率が8%を確保できれば、統計的に、確率的にいかなる事態が生じても8%を割らないことが直接、確認できる。また、最低限維持する自己資本比率を定め、それに見合ったリ

て最大損失リスク量がどの程度までに達したら警戒のシグナルを出すか、水準(アラーム・ポイント)を定めておき、警戒水準に達した場合にはリスク量の削減を経営対策として実施す

続性を維持していくことが一つのリスクマネジメントの目的である。また、こうした経営の継続性を確認するためにはJ Aの抱えるすべてのビジネスリスクが計数化され、

「把握できている」「見えているか」が前提になる。実際のJ Aでの適用例では信用事業の信用リスク、金利リスク、市場変動リスクの最大損失額を経済事業における過大投資や収支口の将来損失金額ならびに数値で算出し、自己資本と全体のリスク量を対比する形で経営の継続性を確認している。

次回は、2つ目の目的「目標利益の導入による安定収入の確保と効率性の向上」。(J A総研主席研究員・加島徹) (次回は23日付)